

名古屋大学大学院環境学研究科と 連携・協力協定 を締結しました



現在、国産小型ジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)の生産や、県営名古屋空港の利用者の増加により、本町に足を運んで頂いている方は確実に増加しています。

これに伴う本町の受け入れ体制、例えばバス路線網の再編や、道路渋滞・交通安全の問題は喫緊の課題です。また、航空宇宙産業を核とした本町の個性や魅力を最大限に活かす施策を講じる必要があります。

今回、これらのニーズに対応するため、名古屋大学大学院環境学研究科と連携・協力協定を締結しました。今月号では、その協定について紹介します。

十月三十一日(金)、役場において、名古屋大学大学院環境学研究科と「連携・協力に関する協定」を締結しました。

この協定により、本町は、名古屋大学の研究実績や人材を環境をはじめとする様々な分野における行政施策で活用する機会を得ることができ、本町の公共交通施策の中心となる地域公共交通網形成計画は、名古屋大学大学院環境学研究科との協働により、現在策定中です。

名古屋大学も一層研究領域を広げ、教職員や学生の視野を拡大し、行政の現場との接点を強化することが可能になります。コンパクトな町域で、



施策をすぐに反映できる本町は研究をすすめるやすい環境といえます。

調印式において、鈴木町長は「最近空港周辺地域はアジアN.O.1航空宇宙産業クラスター形成特区に指定され、国産初の小型ジェット旅客機MRJの最終組立は、本町において行われている。これを町の飛躍的発展の礎とし、総合計画に定める町の将来像『にぎわいとやすらぎのアーバンビレッジ』をより高い次元で実現するため、是非とも知恵をお貸しいただきたい」と述べました。

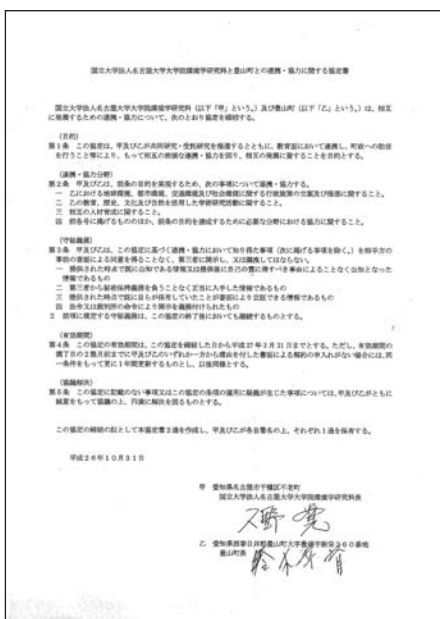
名古屋大学大学院環境学研究科の久野科長は「豊山町は最新の航空宇宙産業が集積している一方、魅力ある豊かな緑も多く残っている。大学も一般市民と対話をして、地域とともに発展していく必

名古屋大学との主な 連携・協力分野

- 地球環境、都市・交通環境等の社会環境に関する行政施策
- 教育、歴史、文化、自然を活用した学術研究活動
- 相互の人材育成

要がある。豊山町の抱える課題について一緒に悩み、解決していきたく」とあいさつされました。

本町では、愛知学泉大学とも連携協定を締結しており、今回の協定を通して、さらなる官学連携の強化を図ります。



連携・協力に関する協定書